

## 金賞

「自分たちでつくる住みよいまち」

福島大学附属中学校

佐藤 真緒

祖母の家の近くには、かわいいかえるのマークがついたバス停があります。私が小学生の頃、普段乗っているバスが止まる場所ではないところに、このかえるのマークがついた停留所があるので、「ここには何が止まるんだろう?」と、不思議に思っていました。

そんなある日のこと。ひざを痛めてしまった祖母が、「今日は初めて『くるくる』に乗ってスーパーに行ってきたよ。」と教えてくれました。

詳しく聞いてみると、祖母が暮らす蓬萊町の中をスーパーやコンビニなどの買い物はもちろん、診療所、歯科医院のようなたくさんの人が利用するお店や施設の近くを無料で巡回する「くるくるバス」があることを知りました。そして、私が不思議に思っていたあのかえるのマークがついたバス停

こそが、「くるくるバス」の停留所だったのです。

今ではたくさんの人が車を持っていません。車があれば、買い物での重い荷物も、受診するための移動手段も、心配はありません。

しかし、高齢化が進む蓬萊町では、免許の返納などの理由で車を持たない・運転しない人が増えています。

「くるくるバス」は、無料で利用することのできる「蓬萊町の人々の足」。調べてみるとこのバスは、地域の方からの募金と、バス車体の広告収入で運行していることが分かりました。行政からの補助金なしに、無料の「くるくるバス」は成り立っていたのです。

私は、坂が多く市街地から遠いこの蓬萊町で、移動手段に困らないよう住民同士がみんなで一緒に知恵と資金を出し合い、自分たちの地域をより住みやすいまちにしようとするこの取り組みに、とても驚きました。

母にこの話をすると、私も小さい頃、「くるくるバス」に乗って母と一緒に買い物に

行っていたことや、その際バスに乗っていたおじいちゃん・おばあちゃんたちに声をかけられ、いつも笑顔でおしゃべりをしていたことを覚えてくれました。

福島市民憲章にある「子どもからおとよりまで安全で健康なまち」は、「くるくるバス」の取り組みのように、自分たちの力で自らのまちを、誰もが安心して住みやすいまちだと感じられるよう、こんなまちにしたいと目を向けることから始まるのではないかと思いました。また、「くるくるバス」は、単なる移動手段ではなく、住民たちのコミュニケーションを育む場にもなっていることに気付き、人との関わりがまちづくりにつながっているんだと感じました。

福島市民憲章を通して、私も自分が暮らすまちに関心を持ち、自分に何ができるか考えることで、自分たちのまちを豊かにしていく視点を大切にし、みんなが安心して長く暮らせる福島市を守っていきたくです。